

平成30年6月10日現在

機関番号：32702

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K16861

研究課題名(和文)ナスル朝社会復元を目的とするカスティーリャ＝グラナダ「境域」の未刊行史料調査

研究課題名(英文) Survey on unpublished historical records of Castilian-Granadan Frontier aimed at restoring the Nasrid-Dynasty society

研究代表者

黒田 祐我 (KURODA, YUGA)

神奈川大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50581823

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、最後の「レコンキスタ」の舞台となった15世紀におけるカスティーリャ王国とナスル朝グラナダ王国との接触領域(「境域」)における諸交渉の実態を解明するために、当時の最前線拠点ヘレス・デ・ラ・フロンテーラの都市参事会議事録を分析した。  
その結果、同世紀においてナスル朝領域と維持されていたミクロかつ地域的な外交関係の存在を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this research, We have analyzed the Town Council's Proceedings (Actas Capitulares), kept in the Municipal Archive of Jerez de la Frontera, in order to elucidate war and peace in the contact area ("boundary") between the Kingdom of Castile and the Nasrid Kingdom of Granada in the 15th century, which was the stage of the last "Reconquista".  
As a result, we have clarified the existence of a micro and regional diplomatic relationships which were maintained with Nasrid region. Those of Jerez would maintain diplomatic relations almost constantly with Ronda and its region, especially with the Villaluenga valley.

研究分野：中世スペイン史、地中海交流史

キーワード：中世 レコンキスタ カスティーリャ ナスル朝 アンダルス フロンティア 地域外交 イスラーム

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 宗教文明間に成立した中世イベリア半島の「境域」へのまなざし

本研究代表者は、中世イベリア半島のキリスト教諸国とアンダルス(イスラーム・スペイン)という異教徒勢力間同士で展開された融和と軋轢の実態を研究対象としてきた。そして本研究に着手する数年前から、最後のレコンキスタの舞台となったカスティーリヤ王国と、最後のアンダルスとしてのナスル朝グラナダ王国間の諸関係の分析に注力してきており、この中でも両王国が境を接する国境地帯に成立した「境域」社会の相貌を明らかにすることを目指していた。

### (2) 当該「境域」の実態を解明するために利用できる新史料の探求

しかし「境域」社会の動向を把握するためには、これまでとは異なる類型に属する史料に依拠する必要があった。すなわち、大局的な王国間関係を分析するにあたっては、国王宮廷で執筆・編纂された歴史書や年代記、あるいは同宮廷で発給される命令書や外交書簡などを分析することで事足りるものの、「境域」のミクロな動きを分析するためには、当該地域由来のローカルな史料を探さねばならなかった。

## 2. 研究の目的

### (1) 「境域」由来史料の収集と分析

そこで本研究では、証言が劇的に増大する時代である15世紀に限定しつつ、新たな史料の発掘と収集、そして解読と分析を行いながら、カスティーリヤ王国とナスル朝グラナダ王国との間に成立した「境域」社会の実相を解明していくことを目指す。

### (2) 15世紀ナスル朝グラナダ王国社会の実態解明

カスティーリヤ王国側の史資料が激増するのに反比例するかたちで、15世紀ナスル朝社会に関する証言は極めて乏しい。本研究では、前者の王国の新史料のなかに含まれる情報を利用しながら、後者の社会を復元していくことも目指した。

## 3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究では、当時のカスティーリヤ王国の最前線拠点のひとつであったヘレス・デ・ラ・フロンテラの市立古文書館(Archivo Municipal de Jerez de la Frontera)に所蔵されている未刊行史料の調査を重点的に行うこととした。特に、既に予備的な調査によってその所蔵状況が判明した同都市参事会の議事録(Actas Capitulares)を網羅的に参照することにした。

この議事録の調査を通して、カスティーリヤ・グラナダ「境域」間で繰り返される諸交渉に関する証言を抽出しつつ、ナスル朝社会の実態の一端を掴むことができる情報を収集していった。

## 4. 研究成果

### (1) 15世紀ヘレス都市参事会議事録の全般的調査

15世紀カスティーリヤ・グラナダ「境域」の状況を多く記録している同議事録は、完全なかたちで残存しているわけではない。しかし同時期の他の近隣諸都市の参事会議事録と比べると、ヘレスのそれは、圧倒的な情報量を誇っている。本研究代表者は、15世紀の初頭(1410年)から、ナスル朝の滅亡を決定づけた「グラナダ戦争(Guerra de Granada, 1482-1492年)」が勃発する直前の1480年に至るまでの同都市参事会議事録を参照しながら、同「境域」情勢に関連する記述を特定し抽出していった。

この幾度にもわたる調査の結果、この議事録が作成された時代である15世紀の同都市参事会では、境を接するナスル朝グラナダ王国領域との双方向的な略奪行為に関する議題から、使節派遣、捕虜の相互返還など、いわゆる外交交渉に類する議題に至るまで、詳細な案件が日夜扱われていたことが判明した。

### (2) 同議事録の電子化

当該古文書館の許可を得たうえでナスル朝グラナダ王国との間の諸交渉をめぐる議事を記載した箇所を電子化を実施し、今後の自身の研究にいつでも利用できるかたちにした。ところで今回の調査の結果、同議事録の保管状態は決して良好とはいえず、損傷と劣化が急速に進行している状況を痛感した。同古文書館職員との面談を通じて、損傷・劣化の激しい同議事録の全体的な電子化の実施へ向けた対応を検討するように働きかけた。

### (3) カスティーリヤ・グラナダ「境域」における地域外交の実態

カスティーリヤ王国域の最前線拠点都市ヘレス参事会議事録を電子化し、1410年から1480年までの70年間にわたる内容の全体を総覧した後、以下の点を明らかにした。

#### 「境域」情勢に関連する記述の全体像

同議事録には、ナスル朝グラナダ王国側の最前線拠点地域(ロンダを中心とするピリャルエンガ渓谷 Sierra de la Villaluenga)に関連する案件がしばしば登場する。それらの案件の多くは、略奪、誘拐をはじめとする戦争・暴力行為の発生とそれへの対処に関する議題が大半を占める。ヘレスをはじめとする最前線領域では日夜、確かに警戒態勢が解除さ

れることが無いにもかかわらず、小規模な略奪や誘拐行為が絶えず発生していたことが確認できた。とはいえ、その規模は小さく、被害も比較的軽微なものといえ、この暴力行為が大規模な戦争に発展することはあり得なかった。

都市ヘレス当局とロンダをはじめとするナスル朝側の最前線拠点の当局双方の思惑は一致していた。すなわち、自らの拠点や領域の住人の行動を把握しきれない前近代世界の常として、定期的かつ不可避に発生してしまうこのような略奪・誘拐行為は、できる限り事前に抑止されるべきであり、また生じてしまったにせよ、その損害の補償と対話を速やかに行うべきと考えていた。

同議事録の記述全体から窺える当該「境域」の状況は、既に研究の蓄積がある同時代のカスティーリャ・グラナダ「境域」東方部の重要拠点ムルシアやロルカにおけるそれと酷似しているといつて差し支えない。

#### 地域レベルで維持されていた外交関係の分析

略奪や誘拐行為が繰り返されて、それに対する報復が負の連鎖を引き起こさないためにも、国境を越えた拠点同士での「対話」を維持することが欠かせなかった。本議事録の記述が、そのことを如実に示している。このような「対話」すなわち外交関係では、専門的な技能を有する人材が活躍していた。

たとえばヘレスの使節として登場するのは、捕虜返還交渉人 (alfaqueque) や先導人 (exea) などと呼ばれる、ナスル朝領域の情勢に詳しい人物であった。この一方で、都市ヘレスと定期的に外交関係を保っているナスル朝領域最前線のピリャルエンガ溪谷村落の有力者と思しき「イブン・ハーシム (Benahaxin)」と呼ばれる一族が、「境域」外交で頻りに登場することが確認された。これまでその実態が不明なままであった、このようなミクロかつ地域的な外交関係のプロセスの解明が、本研究の最大の成果といえよう。

#### (4) 西地中海海域圏におけるナスル朝グラナダ王国の役割を検討するための準備調査

本研究において、15世紀の都市ヘレス参事会議事録調査はひと段落した。本研究の継続として、調査を計画しているバルセローナの王立古文書館 (Archivo de la Corona de Aragón) で、ナスル朝グラナダ王国との外交関係に関連する文書の所蔵状況を確認するための予備的調査を実施した。

また本研究の遂行の過程で意見交換をリエイダ大学教授フロセル・サバテ (F. Sabaté) と実施し、継続研究における協力体制を確立することができた。

#### (5) 中近世ヨーロッパ史のいう枠内における、異なる社会を仲介する人的存在への着目

#### 改宗者への着目

15世紀の都市ヘレス参事会議事録の外交関係の分析を通して、キリスト教からイスラームへの、あるいはその逆方向へと改宗した者らが、「境域」社会において果たした役割を分析した。

#### 文明間を仲介する人的存在への着目

中世イベリア半島内に常に存在し続けた、言語的、社会的、文化的な仲介者としての改宗者に着目した。本研究で明らかとなった15世紀のカスティーリャ・グラナダ「境域」で確認された改宗者の存在を軸に、彼らが中世ヨーロッパ世界において果たした意義を、時間的、空間的な広がりの中で改めて論じなおした。

中世とは異なり近世において、スペイン王権は、政治と宗教を一元化し統治の強化を図り、「近世国家」の構築を目指すことになる。このように全世界規模で政治と宗教の一元化を通じた管理・統制が強められていく近世において、こうした仲介者を受け入れる素地も、その必要も無くなりつつあったのではないかと論じ、多様な中世イベリア半島社会において多様なかたちで存在し続けた仲介者の歴史的意義について、本研究の成果を生かしながら主張した。

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計1件)

- ◆ 黒田祐我、さまざまな「仲介者」が活躍する世界 中世イベリア半島、信大史学、査読無、41、2016年、1-33

##### 〔学会発表〕(計6件)

- ◆ 黒田祐我、中世と近現代との「対話」 アンダルス(イスラーム・スペイン)の遺したモノをめぐる議論のゆくえ、早稲田大学高等研究所セミナーシリーズ【新しい世界史像の可能性】「モノをめぐる歴史のこれまでとこれから」、2018年
- ◆ KURODA, Yuga, La vida y diplomacia local en la frontera castellano-granadina, III Coloquio Internacional "La Edad Media vista desde otros horizontes", 2017年
- ◆ 黒田祐我、文明間をつなぐ仲介者 越境交渉の担い手からみる中世後期イベリア半島のアンダルシア・ムルシア社会の断面、2016年度第二回ヨーロッパ中世史研究会 (REN) 例会、2016年
- ◆ 黒田祐我、文化と信仰の狭間で活動する仲介者 中世イベリア半島を事例として、信大史学会、2015年

## 〔図書〕(計5件)

- ◆ 黒田祐我 他、明石書店、東方キリスト教諸教会 研究案内と基礎データ、2017年、606 ( 515-526 )
- ◆ 黒田祐我 他、明石書店、スペインの歴史を知るための50章、2016年、390( 46-97, 324-328 )
- ◆ 黒田祐我、刀水書房、レコンキスタの実像 中世後期カスティーリャ・グラナダ間における戦争と平和、2016年、436
- ◆ 黒田祐我 他、上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター、アジア・アフリカにおける諸宗教の歴史と現状、2016年、100 ( 1-17 )
- ◆ KURODA, Yuga 他、Cambridge Scholars Publishing、Life and Religion in the Middle Ages、2015年、395 ( 335-362 )

## 〔その他〕

### (1) 書評など

- ◆ 黒田祐我、(書評)阿部俊大著『レコンキスタと国家形成 アラゴン連合王国における王権と教会』史学雑誌、査読無、126-10、2017、89-98
- ◆ 黒田祐我、(書評)芝修身『古都トレド 異教徒・異民族共存の街』西洋史学、査読無、262、2017、86-88

### (2) Web ページ

- ◆ <https://researchmap.jp/yugatosnegros/>  
( 論稿や著書、報告要旨を順次掲載 )

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

黒田 祐我 ( KURODA, Yuga )  
神奈川大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：50581823